

スポット噴口を用いた接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法

黄色種

(業界紙「たばこ塩産業」より一部引用)

黄色種における散布体系図

区分	散布方法	発蕾期	心止期	心止後				
単用の場合	コンタクト単用 (発蕾期～心止期までは2回以内 心止後は4回以内)	コンタクト 30～40倍 10～15ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-S(W)	コンタクト 30～40倍 10～15ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-W(S)	コンタクト 30～40倍 20～30ml/株 又はスポット散布 又は連続散布 スポット噴口 SP-10	コンタクト 30～40倍 20～30ml/株 又はスポット散布 又は連続散布 スポット噴口 SP-10	コンタクト 30～40倍 20～30ml/株 又はスポット散布 又は連続散布 スポット噴口 SP-10	コンタクト 30～40倍 20～30ml/株 又はスポット散布 又は連続散布 スポット噴口 SP-10	
	エキガゾール単用 (心止後2回以内)			エキガゾール 30～40倍 15～30ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10		エキガゾール 30～40倍 15～30ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10		
	ブルーリボン単用 (心止後2回以内)			ブルーリボン 100倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10		ブルーリボン 100倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10		
	イエローリボン単用 (心止後2回以内)			イエローリボン 50倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10		イエローリボン 50倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10		
併用の場合	※併用パターンは以下の3種類のみ ①コンタクト・エキガゾール併用 ②コンタクト・ブルーリボン併用 ③コンタクト・イエローリボン併用 (併用する場合の総使用回数は4回以内 ・発蕾期～心止期まではコンタクトのみ2回以内 ・心止後はコンタクトとエキガゾール、コンタクトとブルーリボン、コンタクトとイエローリボン各1回の併用 ・またはエキガゾール、ブルーリボン、イエローリボンのいずれか単用で2回以内)	コンタクト 30～40倍 10～15ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-S(W)	コンタクト 30～40倍 10～15ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-W(S)	コンタクト 30～40倍 20～30ml/株 又はスポット散布 又は連続散布 スポット噴口 SP-10	エキガゾール 30～40倍 15～30ml/株 ブルーリボン 100倍 20ml/株 イエローリボン 50倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10			
		コンタクト 30～40倍 10～15ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-S(W)	コンタクト 30～40倍 10～15ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-W(S)	エキガゾール 30～40倍 15～30ml/株 ブルーリボン 100倍 20ml/株 イエローリボン 50倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10	エキガゾール 30～40倍 15～30ml/株 ブルーリボン 100倍 20ml/株 イエローリボン 50倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10			

【散布方法】

スポット散布: スポット噴口を用いて、幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、幹1本づつ幹にそって薬液を流しわき芽に確実に接触する方法。

連続散布: スポット噴口を用いて、幹間移動の際も薬液の吐出を止めることなく、次の幹に瞬時に移動して、葉にできるだけ飛散しないように、幹にそって薬液を流す方法。

【薬剤の使用時期】

発蕾期: 頂上葉の葉先と花蕾の高さが揃った時期

心止期: 心止作業前後の時期

心止後: 心止作業以降の期間

【スポット噴口の使用時期】

SP-S: 発蕾期に使用(わき芽に直接散布)

SP-W: 発蕾期後期から心止期に使用(わき芽に直接散布)

SP-10: 心止後に使用(幹の上から散布)

ご注意: 接触型わき芽抑制剤の使用にあたっては、たばこ用農薬の使用基準の範囲内で行なって下さい。

スポット噴口を用いた接触型わき芽抑制剤の具体的使用方法

在来種・バーレー種

(業界紙「たばこ塩産業」より一部引用)

在来種・バーレー種における散布体系図

区分	種類	散布方法	発蕾期	心止期	心止後	
単用の場合	在来種 (3在、5在) バーレー種	CONTACT単用 (心止期以降2回以内)		CONTACT 30~40倍 10~15ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-W(S)	CONTACT 30~40倍 20~30ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10	
		CONTACT単用 (発蕾期は1回以内 心止期以降は2回以内)	CONTACT 40倍 10~15ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-S(W)	CONTACT 40倍 20~30ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10	CONTACT 40倍 20~30ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10	
	在来種 バーレー種	エキガゾール単用 (心止後2回以内)			エキガゾール 30~40倍 15~30ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10	エキガゾール 30~40倍 15~30ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10
		ブルーリボン単用 (心止後2回以内)			ブルーリボン 100倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10	ブルーリボン 100倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10
		イエローリボン単用 (心止後2回以内)			イエローリボン 50倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10	イエローリボン 50倍 20ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-10
	併用の場合	在来種 バーレー種	※併用パターンは 以下の3種類のみ ①CONTACT・ エキガゾール併用 ②CONTACT・ ブルーリボン併用 ③CONTACT・ イエローリボン併用 〔併用する場合の総使用 回数は2回以内〕 ・心止期はCONTACTのみ 1回以内 ・心止後はエキガゾール、 ブルーリボン、イエロー リボンのいずれかを1回 以内		CONTACT 30~40倍 10~15ml/株 スポット散布 スポット噴口 SP-W(S)	エキガゾール 30~40倍 15~30ml/株 ブルーリボン 100倍 20ml/株 イエローリボン 50倍 20ml/株 スポット噴口 SP-10

【散布方法】

スポット散布: スポット噴口を用いて、幹間移動の際は薬液の吐出を止めて、幹1本ずつ幹にそって薬液を流しわき芽に確実に接触する方法。

連続散布: スポット噴口を用いて、幹間移動の際も薬液の吐出を止めることなく、次の幹に瞬時に移動して、葉にできるだけ飛散しないように、幹にそって薬液を流す方法。

【薬剤の使用時期】

発蕾期: 頂上葉の葉先と花蕾の高さが揃った時期

心止期: 心止作業前後の時期

心止後: 心止作業以降の期間

【スポット噴口の使用時期】

SP-S: 発蕾期に使用(わき芽に直接散布)

SP-W: 発蕾期後期から心止期に使用(わき芽に直接散布)

SP-10: 心止後に使用(幹の上から散布)

ご注意: 接触型わき芽抑制剤の使用にあたっては、たばこ用農薬の使用基準の範囲内で行なって下さい。